

はじける こころ

人権・みのおの教育じまん
生徒指導担当の仕事は今…
“荒れ”対応から子どもの心に
寄り添うコーディネーターへ

……1-2

食の自立をめざして
健康的な食習慣形成のために『知識から行動へ』

……3-4

わが学校園所じまん
とどろみの森学園

……5-6

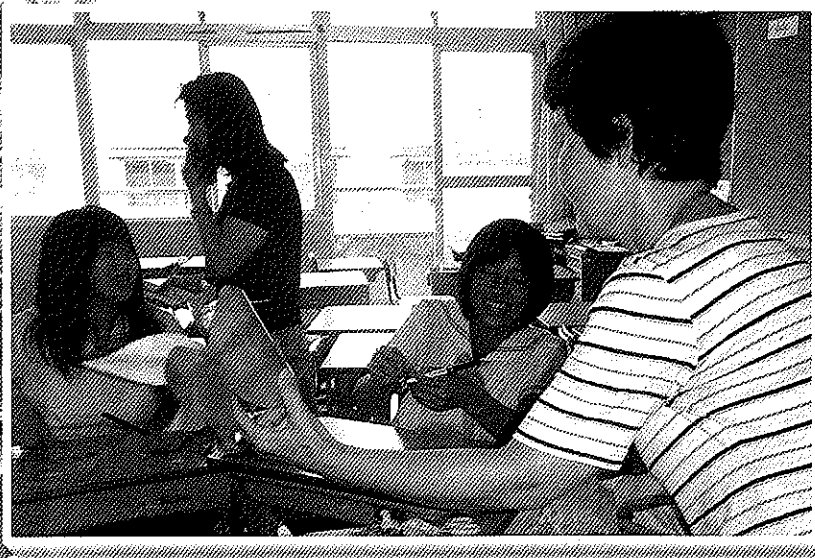
エッセイ
はなよめさん

……6

みのお人権トピックス
新型インフルエンザ流行で見たこと

……7

げんげの：「げんげ（紫雪草）」とは、れんげ草のこと。で、「げんげ」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。



げんげのぺえじ

みのおから世界へ！人権文化の花束を！

●写真募集！●

子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。

このコーナーでは、人権に関わる時事情報を取り上げていきます。

新型インフルエンザ流行で見たこと



A：新型インフルエンザ騒動はたいへんだったね。

B：そうやねえ。保育所、幼稚園、学校が休校になったり、みんなたいへんだったよ。

C：「制服をクリーニングに出したら、嫌な顔された」とか、「隣の子が庭で遊んでるけど、うつらへんか」とか、感染者の出た学校の子は、危険人物扱いされたみたい。私も、東京に行ったときに、大阪から来たというだけでいやがられたりされたわ。

A：それって過剰反応だよ。報道の影響もあるのかな。報道に敏感というか、振り回されてるというか。ちょっと騒ぎすぎの感じはしたけど、情報はいつばい伝えられてるのに、なんでそんな反応になるのかな。

B：なんか感染した人が病気の発生源で、悪者みたいに報道されてたのは気になったな。それで「隔離したらいい」みたいな感じになってたし。病気の封じ込めのためなら、何をしてもいいって感じになってるように気がしたわ。昔のハンセン病の対応とかに似ていて怖かったわ。

C：でも、感染拡大防止のためには仕方ないやん。

A：必要な予防策や対策は必要やね。そやけど、その人が悪いわけじゃなくて、病気の被害者のはずやん。それやのに報道で学校名まで出して、発生源みたいに言われたり、その学校の子は、いやな思いをしたと思う。日本の中では、関西全体がそんな扱いだったから私もいやな目にあつたし。

B：自分が被害者にも加害者にも、簡単になるってこ

とやね。

C：でも、「新型」って言われたら、なんかわからへんし、こわいやん。

A：そうやね。自分もそうやけど、病気は怖いよ。でも、自分さえ感染しなかったらいいって感じでマスクを買い占めたり、感染した人たちを隔離したら自分らが安全でええねんって世間全体がなってるように感じたわ。それで流行が少し収まったら、何にもなかったことになってる気がする。いまだに風評被害を受けてる人もいるのに。悪者にされた人たちの気持ちや生活がどうなったかなんて気にすることもなくて。

B：「未知の病気」なんだかわからないもの「こわい」みたいな図式で、無責任なことを言ったり、したりしてるんだね。情報から何を受け取るか、もう少し冷静に自分で判断しないとね。

A：「人権が大切」とか言っても、何かの時にふつと人権侵害してしまうやね。自分の気持ちや行動は、いつも振り返らなアカんなど今回のことで思ったわ。

日本の中でいち早く新型インフルエンザが流行した大阪。その中で、「気になったできごと」をはじめこの編集委員が話しあいました。

この会話を讀んだあなたはどう思いますか。

参加編集委員 蒲 隆夫、小関政子
平沢清美、守婦朋子

人権教育推進会議情報誌 『はじける ところ』

発行 箕面市人権教育推進会議
箕面市教育委員会

人権教育課 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010

e-mail: edujiinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成21年（2009年）9月

人権教育推進会議委員

平沢安政、谷川守保、河野秀忠、蒲隆夫、安東由紀子、辻みゆき、永尾通恵、姜信愛、守婦朋子、小関政子、平沢清美、山内美紀子、宮本智美、堤下利美、奥谷俊彦、竹綱珠衣、平林和男

「はじけるところ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。また公共施設にもおいています。
公開ホームページ：http://www2.city.minoh.osaka.jp/EDUJINKEN/JINKEN/jinkenhtml

● みのお・教育じまん

今年度は「人権・みのおの教育じまん」をテーマに、箕面市の教育の中で独自の取組や特にユニークな取組を紹介していきます。

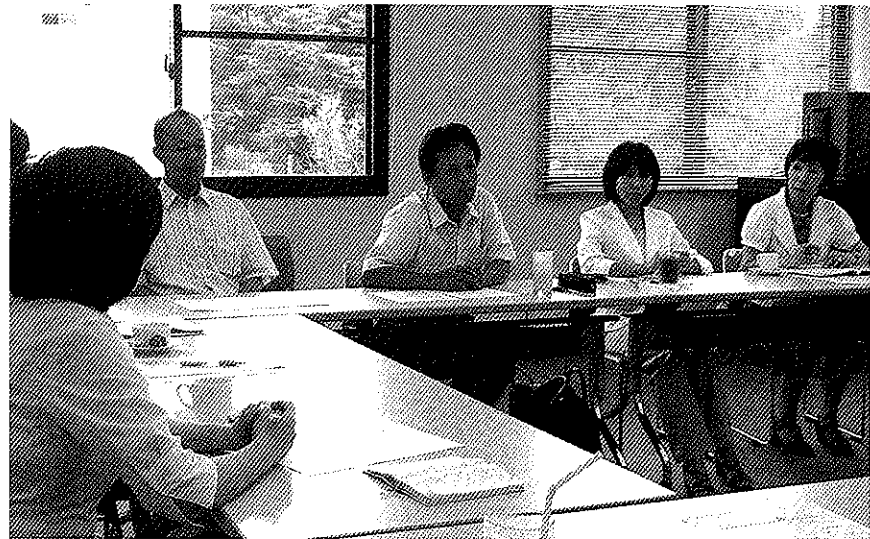
まず今回は、生徒指導主事についての特集です。（小学校では、生活指導担当教員です。本誌では以下「生指」とします）

本市では、全ての中学校と小学校六校に生徒指導担当者授業支援員を配置し、「生指」が授業を持たずに活動ができるようにしています。今回は西小学校の岡久先生、豊川南小の大浜先生、第三中学校の俵積田先生、第六中学校の斎藤先生以上の四名の「生指」担当の先生方に、現在の活動や取組についてお話しいただきました。

聞き手（はじけるこころ編集委員）

「生指」の仕事は今…

「荒れ」対応から
子どもの心に寄り添う
コーディネーターへ」



Q 現在の生指の仕事は？またその中で大切にしていることは何ですか。

A 子どもたちが、安全に学校生活を送ることができるよう校内外の巡回を行い、日頃から声をかけることで、子どもたちと信頼関係を築くようにしています。また、子ども同士、子どもと教職員、教職員と家庭、学校と地域のつながりを大切にしています。そのためにしっかりと相手の話を聞きます。

「生指」は「怒る先生」ではなく、子どもの話をしっかりと聞いて子ども自身が「これはしたらあかん」と気づくことを大切にしています。

B 日々の生活の中で子どもたちとコミュニケーションしながら朝会や集会などで全体を指導し、それをまた担任の先生にクラス指導の中で具体的に伝えてもらっています。大きな課題がある場合は、外部機関とも連携して、解決に当たります。また子どもたちは、校区の枠を超えて動いていることもあるので、週一回は市内の「生指」で会議を行い、他校と情報交換を行ったり、解決に向けての相談をしたりしています。

C 小学校では、問題行動について未然防止の取組が大きくなっています。そのために、定期的に子どもたちの様子について話し合ったり、人間関係を育む授業を行ったり、子どもからのア

ンケートを分析し取組を生み出したりといった校内でのチーム連携をすすめています。小学校では、担任一人で対応する場面が多くなりがちなので、チームで子どもたちを見守り指導することを大切にしています。また、学校と、家庭、地域、幼保小中の連携などをすすめる、それぞれと情報共有しながら、子どもにとってよりよい対応ができるように努めています。

D もちろん問題行動について子どもの指導もしますが、保護者の意識もそれぞれ異なるので家庭との連携も大切にしています。子どもとも保護者ともしっかりと話をすることが重要です。また「生指」はどの子も同じように客観的に観察することができ、課題に気づいたときに、その学年の先生と連携が図れるよう、日頃から教職員間のコミュニケーションも大切にしています。

Q 授業を持たずに活動するメリットは？

C 小学校が中学校の「生指」から学んだことのひとつに素早い対応の大切さがあります。支援員が私の代わりに授業を担当してくれるので、出来事を担任とともにつかんで整理したり、管理職に報告相談したりといった対応が迅速にできます。

D 問題が起こったときは、その日のうちに解決することがとても重要です。その日の問題をその日のうちに解決することで、保護者も子どもも安心して翌日からまた元気に登校できるわけです。外部機関と連携できるなどすぐ動ける教員がいることは、現場としてはありがたいですね。

A 登校が難しい子どもに電話をしたり、迎えに行ったりと子どもたちにゆとりと丁寧に対応できますね。

D 中学校では、年齢的なこともあり生徒の抱える問題も多種多様です。授業が終わってからの対応では、情報収集も、外部機関との連携も遅れがちになるので、すぐに動けることのメリットは大きいです。教師が余裕を持って子どもたちに向き合えることが、いい雰囲気作りに役立ち、問題の拡大を防ぎ、生徒も落ち着きます。

Q これまでの成果や現在の課題は何ですか？

A コミュニケーションを取りにくい子もいますが、じっくり話を聴くことで、元気になる場合も多いと思います。保護者の話を聴く、不登校の子どもを訪問するなど、ゆとりを持った対応やチームでの情報交換が問題行動の未然防止に役立っていると思います。

C わたしたちの学校では、「ルール



を守る」ことを身につけるため、子ども自身が児童会議で「学校生活のやくそく」を作っています。また、生活目標は、子どもたちが寸劇で全校児童に伝えるという取組を継続して行っています。出演者を公募したところ、劇に出たい子が大量に出て関心の高さを実感しました。

B 子どもたちは、簡単にルール違反はするけれど、元のルールを変えることには意欲がありません。自主自立をめざしていますが、なかなか動きません。また、各家庭とどれだけしっかり話しあえるか、保護者との相互理解のために何ができるかが、課題です。

B 家庭との連携が難しくなってきたいます。「これがうちの教育方針です」

と言われると、それ以上の指導や話し合いができないこともあります。子どもは昔と変わっていないと思いますが、子どもを取り巻く大人が変わってきている気がします。

A 家庭との連携については、担任と保護者の間で意見が対立したときなど、「生指」が参加して、違う角度で話をするとうまくいったこともあります。やはり、小学校でもチーム対応が必要だなと思います。

Q 今後の抱負や取組んでみたいことは？

A 例えば六年生が一年生に関わることで、「自分が役に立っている」という気持ちを体験し、自分に自信が持てるような取組をしていきたいですね。そしてそのことを未然防止につなげていきたいと思っています。

C 保護者のみなさんは子どもたちを大切に育てています。その気持ちをしっかりと受け止めます。ときには子どもたちを厳しく指導したり、集団生活への理解をお願いしたりすることもあります。そんなときも保護者や子どもに敬意をもって接し、信頼感を培うことで、子どもの前向きな力を引き出していきたく願っています。

B 中学校との連携を大切にしていきたい。また、子ども、保護者、担任に

寄り添い、担任でないからできるメリットを活かし、またチームとして多面的に子どもをサポートできる連携システムを今後もうまく機能させていきたいと思っています。

D 人間関係が取りにくい子どもや保護者もしっかり話ができるようにしていきたい。保護者や地域で話す機会も増えてきているので、連携を強化するためにも今後も続けていきたいと思っています。

座談会に参加して…

○昔の生活指導のイメージとは違うことに驚き、子ども、保護者、担任、外部組織などチームワークの相乗効果を感じました。

○箕面市は生指が確保されている分、システムとしては好条件なので、子どもたちをサポートするために大人たちが好チームワークを実行していくのみ！

守部 朋子
平沢 清美



■箕面市の学校給食で子どもたちに伝えたいキーワードは「生きる源」「自然の恵み」「食文化」「社会性（人や社会とのかわり）」。

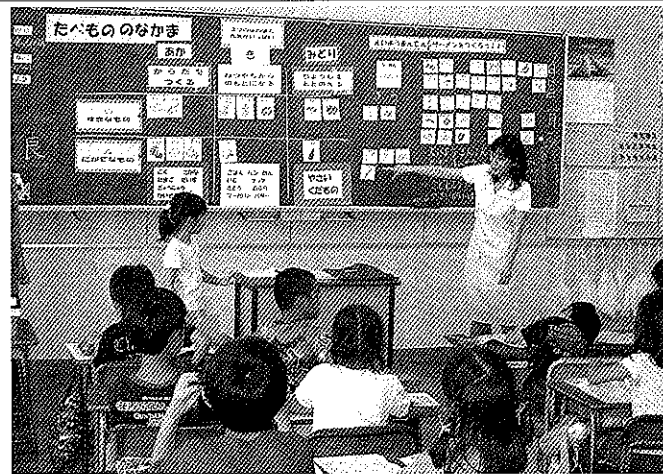
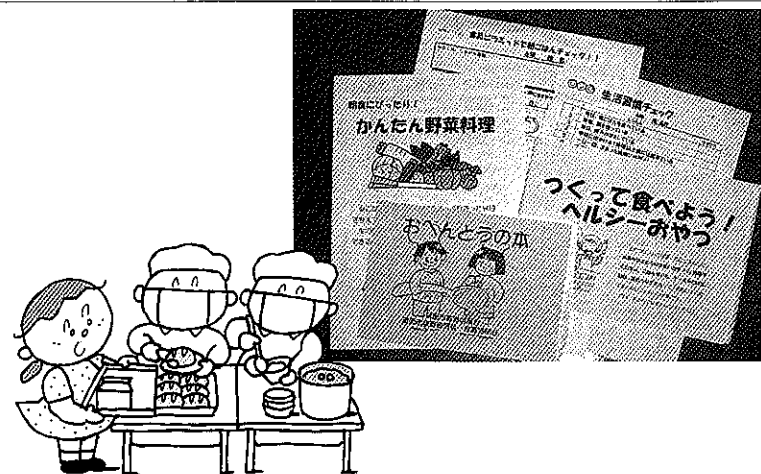
「今日の給食何かな？」と給食室の見本を見に行くのを楽しみにしている子がいるという給食には多くの工夫が凝らされていました。なんと、一ヶ月に百種類の食材が使用されていることや、だしはもとより家庭で作るのが面倒なカレーやシチューのルウ、さつま揚げなども手作り。それは単に栄養バランスを考えるのではなく、旬の食材を使ったり、伝統食や行事食・外国の料理を取り入れたりして作られるバラエティー豊かな献立が、子どもたちに給食を期待させていました。

この給食を食育の重要な機会の一つとして積極的に利用する牽引車的立場に、市内十二名の栄養士の先生がおられます。どの小学校でも同じ給食が提供されるように、食育の授業も指導できるように研修されています。

参観授業の終了間際に「献立カレンダーにも三色の栄養素が書いてある」と先生が言われたときに、「毎日、にんじんが入っている」と発言した子がいたのは驚くと同時に、箕面市がめざす食育の推進状況を垣間見ることができました。

小関 政子

■「三つのなかま」を意識させた上で、ラーメンに入れる「具」を考え



萱野小学校 食教育の取り組み

食の自立をめざして

健康的な食習慣 形成のために 『知識から行動へ』



食教育は、「野菜を作る」「調理する」「食べる」など、楽しい体験を組み込みながら学ぶことができます。また、子どもたちが習得した知識を給食や家庭の食事など、日々の生活とつなげながら活用できる力を育んでいくことが大切です。

学校ごとの独自カリキュラムもありますが、現在、箕面市の標準カリキュラムを検討しているところです。

◇家庭・地域との連携

子どもたちの「食」の大部分は家庭が担っていることから、家庭や地域との連携を図ることが重要です。授業で使ったプリントに保護者からのコメント欄を設けて、子ども・保護者・学校をつないだり、授業の発展として家庭での料理作りの課題を出したりし、家庭との連携を心がけています。

また、給食日より等を通じた情報発信、個別対応調理についての相談、養護教諭と連携した健康相談、平和登校日などの学校行事や給食試食会でのPTA健康委員会との連携、かやのキッズなどの地域や関係機関が主催する食に関する行事への参画や交流も深めています。

給食試食会では、給食や授業の内容を紹介し、保護者の理解を深め、意見を交流するいい機会としています。保護者が給食や食教育について関心を持ち、それを家庭での食生活

へつなげるひとつのきっかけとなればと考えています。

◇食に関心を持ち、楽しく食べる

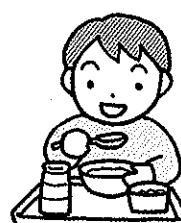
給食では、〇ー157やノロウイルスなどの食中毒予防対策、箕面市や大阪の地場産のもの国内産の材料、食品添加物の少ない加工品を選ぶなど、安全な給食内容をめざし、十分な衛生管理や良質な給食物資の選定に努めています。

献立は、手作りを心がけています。また、伝統食や行事食、外国料理を取り入れ、食文化との出会いと継承を大切にしています。

・給食を楽しく

給食を子どもたちが毎日体験学習する「生きた教材」ととらえ、食べ物や食文化との出会い等、様々な側面から健康的な食習慣の育成に積極的に活かすことをめざしていきます。

子どもたちが給食に興味を持ち、おいしく、楽しく、食の自己管理を養う目的でセレクト給食や6年生の卒業バイキング給食なども実施しています。



■箕面市の市民として、初めて萱野小の「食教育」の授業参観に参加して、とてもよかったです。

韓国から嫁に来て、十八年間ずっと箕面で住みながら知り合いに「箕面に住んです」と言ったら、九〇%の人々が「良い所に住んですね」と声をかけてくれます。

今回の機会で、日本の食文化と韓国の食文化をお互い様に学ぶ場があれば良いと思いました。

箕面市の給食のメニューの中でも、外国の食として韓国の料理「ビビンバ」「トッポギ」「チヂミ」などがあるって、韓国人としてはとっても嬉しいでした。

韓国では、こういう暑い夏には「参鶏湯（サムゲタン）」という熱い物を食べる文化で、暑いときには熱い食べ物で体の気を高めたりします。

それと、一月一日には「トックッ」、一月十五日は十二種類のナムルと5種類の雑穀を食べて一年を健康に過ごす風習があります。

子どもを産んだ後は必ず、「わかめスープ」を食べて長生きを祈ったり、結婚式の日には「そうめん」を食べて夫婦共に長生きと健康を祈る食の文化があります。

また、これからも箕面市の発展とともに、韓国の本場を味わう機会をつくるようにがんばります。

姜 信愛

蒲 隆夫

今年の梅雨(つゆ)は、本当の梅雨空だよね。毎日、毎日、雨ばかり。こんなに雨がふると、ネコのミイちゃんも退屈(たいくつ)するし、わたしも外(そと)に出られないから、つまらないよ。元気なのは、玄關横(げんかんよこ)のアジサイの花だけ。アジサイは、雨にぬれてキレイなんだけどね。毎日来てくれるヘルパーさんが、「早く梅雨があがればいいんだけどね。まだ、セミの声が聞こえないからムリかもね。そうそう、ケイちゃんちのアジサイに、カタツムリがいたよ。」って。カタツムリも元気なんだあ。でも、母さんも、父さんも、弟のガクも、みんな、みんな、毎朝、空を見上げて、今日も雨がふって、ジトッとしてる。わたしんちの朝は、いそがしくて、にぎやか。父さんは、パンをくわえて、バスで会社に行く。母さんは、わたしの着替(きが)えをすすすと、近所のスーパーへパートに行く。わたしは、ヘルパーさんにストレッチャール丸ごとのカッパをきせてもらって、ガクと三人で学校に行く。カッパは、あつし、まわりが見えないし、スキじゃない。雨の日は、学校に行くのは、家の中



エッセイ

おねえちゃんはおよめさん
by かわのひでただ

ばっかりになっちゃう。そんな、六月のわたし。みんながジトッとしてるのに、わたしのおねえちゃんだけが、元気なん。どうしてかというとおねえちゃん、この六月に、およめさんになるよ。それでメッチャ元気。そんなある日、おねえちゃんのおむこさんになる哲夫さんがたずねて来た。なかなかのイケメンよ。なんか、結婚式(けつこんしき)の打ち合わせなんだって。しばらくふたりで話し合っていたんだけど、だんだんと、おねえちゃんの声が大きくなってきた。わたしは、聞き耳(きみみみみ)で。どうして、結婚式にケイが出ないの？ケイは、わたしの妹なんよ。哲夫さん、あなたが、わたしと結婚するということは、ケイは、あなたの妹になるってことじゃない。その妹が、どうして結婚式に出ないの？

「うん、まあ、そうなんだけど。結婚式には、いろんなひとが来るから。ケイちゃんも、ストレッチャールに乗って、人工呼吸器(こうくわしき)からも、いろんな音が出るから。それで、みんながおどろいちゃいけないと思ってるね。」

「ふん、そういうことなの。ようするに、ケイが障害者だから、カッパの着替(きが)えから、結婚式に出ないのね。」

「そういうわけじゃないんだけど、結婚式にストレッチャールは、なんかヘンじゃないかなとね。」

わたし、思わず笑っちゃった。哲夫さんは知らないんだ。おねえちゃんが、メチャクチャ気が強いってことを。わ

たしんちでも一番だよ。そりゃあ言うよ、おねえちゃん。また、しばらく話合ってたけど、突然(とつぜん)おねえちゃんの大声がバクハツしたよ。

「わかった、わかりました。哲夫さんは、ケイに障害があることを気にしているんだ。ケイは、わたしの妹なんよ。わたしの妹なんだというのを見ていないのね。わたしにとっては、ケイに障害があっても、なくっても、そんなのカンケーないわ。大事な妹(妹)だけ。哲夫さんが、ケイのことをそんなヘンな目で見ていたなんて。そんな哲夫さんをスキになつた、わたしがまちがってたわ。だから、この結婚は、ナシにしましょ。」

って。そりゃあ、聞き耳(きみみみみ)で。わたしもビックリしたけど、哲夫さんは、もっとビックリした。オロオロして、口もごもごばかりして。さあ、それからどうなったと思う？

六月のピーカンの日。わたしは、結婚式(けつこんしき)にいたよ。おねえちゃんも、ウエディング・ドレス。哲夫さんは、モーニング・スーツ。わたしが、おねえちゃんに、パチクリ語で、

「おねえちゃん、おめでとー！よかったね。」

って、話かけると、おねえちゃんは、ニコニコして、ピース・サインを出した。そして、わたしの耳もとで、

「やったあ！」

だってさ。あの大声のあと、哲夫さんは、汗をタラタラ。顔真っ赤にして、おねえちゃんにあやまったのよ。

「ボクが悪かった。ひとの目のことばかり考えていて、あなたや、ケイち

やんの気持ちを忘れてしまっていた。ゴメン、みんなと一緒に結婚式をやるう。」

って。哲夫さんは、結婚式のあいさつで、

「ここにいる、ケイちゃん、ガクちゃん、ボクの新しい妹、弟です。ボクたちは、こうしてつながりました。これから一緒に生きていきますので、よろしく願(ねが)います。」

って、言った。気の強いおねえちゃんの目から、ポロリと涙(なみだ)の玉(たま)ひとつ。

こうして、おねえちゃんは、わたしんちから、新しいおうちに行(い)ったんだ。いつも吸引(きゅういん)してくれたり、パチクリ語の通訳(つうやく)をしてくれた、おねえちゃんがいなくなつて、ちよびりさびしいけど、でも、でも、大スキなおねえちゃん。わたし、おねえちゃんの妹で、よかったあ！夏は、もうすぐ……

●あなたには、妹や、弟。おねえちゃん、おにいちゃんはいませんか。どんな、おねえちゃん、おにいちゃん、妹、弟ですか。

●なぜ、ケイちゃんは、結婚式に出(い)てはいけなかったのか。わたしは、あなたに、だれかの結婚式に出(い)たことがありますが、それは、だれの結婚式でしたか。

●哲夫さんは、どうしておねえちゃんにあやまったのでしょうか。

●ケイちゃんの家は、何人家族(なんにんかぞ)かな。

●なぜ、おねえちゃんは、バクハツしたのか。先生と一緒に(いっしょ)に、考えましょ。



とどろみの森学園

「はじめの一步… 友だち百人できるかな」

～医療的ケアを必要としている児童とともに～



とどろみの森学園は、九年間の一貫した教育環境のもと、確かな学力と豊かでたくましい心身をはぐくみ、未来を開く人間力と培(つちか)うことを目標に「自分発見・ひと発見・未来発見」をくわく体験・のびのび失敗・どんな挑戦」する子をめざし、一年生から九年生までは百二十五人の子どもたちが元気に学校生活を送っています。

昨年度に、支援学級が設置されましたが、児童数が今年度になって一人から九人に増え、にぎやかになってきました。今回は、その中で一年生の医療的ケアを必要としているAくんについて紹介します。Aくんは、食事のときに、胃(い)腸(ちよう)から栄養剤(えいようざい)を注入(じゆ)すること、酸素ボンベを常時使用(じようじよう)していて気管内吸引(きくわんしゆういん)、ガーゼの交換、などの医療的ケアを必要としている児童です。医療的ケアの実施は誰が行ってもよい行為ではなく、看護師資格を持つ介助員によ

って、行われています。それは、特に身体面においてさまざまな配慮が必要となるため、それを踏まえた専門的関わりが必要だからです。もちろん生活面、学習面では、担任、支援学級担当、介助員がサポートし、多くの友だちとの関わりの中で毎日元気に学校生活を過ごしてきました。

■一日のスケジュールです
朝：学校からタクシーで家までお迎え。一時間目：支援教室で、学校内の学習用の座位保持椅子(ざいほくけい)に乗り換え。教室で鉛筆を持って、ひらがなの練習や数字の練習。プリントを前のお友だちが渡してくれます。

やすみ時間：とどろみの森学園では十五分あります。運動場へ出たり、教室でお友

だちが話したり、手をもつて遊んだりするのをニコニコ顔で見えています。笑顔が一番出るときです。二、三時間目：授業を受けます。

休み時間：経口摂取(けいこうしゆく)（むせずに口から物を食べたり飲んだりする）練習をします。

四時間目：注入食(じゆにんじき)を準備し、点滴のようにフックで上からぶら下げ、胃腸(いちよう)から栄養剤(えいようざい)を注入(じゆ)します。これを四十分ほどかけて行います。

一学期の終わりに、注入が終わった後、教室でお友だちが給食を食べている姿や声を楽しんでいました。時には、お家から用意してきた果物や、ヨーグルト、グミなどをガーゼでくるんで食べたりします。その後、歯磨(はみが)きをしに支援教室へ行きます。

昼休み：いろいろな学年のお友だちが、支援教室に遊びに来ます。掃除の時間：おむつ交換や、ガーゼ交換、水分の注入など必要であれば行って、午後の授業に備えます。

五時間目：車椅子に移動して、教室へ。お帰りの用意をして、車椅子を乗り換えて、二時五十分タクシーで家へ

帰ります。

■一学期を終えて
体温調節が難しいので、こまめに環境を整えることや、水分バランスに注意すること、事故の無いよう、安全に学校生活を送れるよう環境を整えています。保護者の方の「子どもたちのにぎやかな声と自然な関わり合いのある地域の学校に、兄弟と一緒に通わせたい」という思いの中、体調管理に気を付け、たくさんの人、もの、出来事に会(あ)い合うことを大切にしました。

一日の学校での生活は、行事などによって変わってきます。その都度、お家の方や、関係の教職員で相談しながら、進めてきました。一学期は定期検診のための通院(つういん)以外は、一日も休まず登校(とうこう)できました。その中で、天王寺動物園への遠足、幼稚園との交流、プールなどほとんどの行事に参加できました。また合同運動会に向けての異学年交流では、さまざまな学年の友だちと一緒に給食を食べたり、グループで写真をとったりしました。幼小交流でとどろみ幼稚園に行(い)って、幼稚園の子と一緒にペットボトル(ペットボトル)のおもちゃを作ったりもしました。日々のさまざまな出来事と出会いの中でAくんも日々違った表情(へいしやう)を見せてくれました。「友だち百人できるかな」の第一歩(だいいち)を踏みだしたところです。